

専門分野				
日本文学(古典文学)・日本神話				
研究課題				
『古事記』の研究、『日本書紀』の研究、『風土記』の研究、『古語拾遺』の研究、『先代舊事本紀』の研究、近代における古代文献の受容とその図像化の研究 他				
教育活動				
担当授業科目(学部)				
日本古典文学史、古典文学講読Ⅱ、古典文学講Ⅳ、日本文学概論、専門基礎演習、専門応用演習、卒業研究、日本語表現技法、フィールドスタディーズ(日本文学文化)他				
担当授業科目(大学院)				
事項	年月	対象者	概要	
教育方法の実践例				
作成した教材・資料集				
その他教育活動上特記すべき事項				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD等				
学術論文				
近代日本における古代文献の受容とその図像化 について	単	平成 24 年 3 月	『科学研究費補助金基盤 B「文化遺産としての大衆的イメージ—近代日本における視覚文化の美学・美術史学的研究—」報告』	近代における『古事記』、『日本書紀』の神話や物語がどのように受容され、新たな価値を付与され利用されていったのかを幾つかの事例を挙げて考えた。 古代において我が国を統一した大和朝廷の最高位に君臨した天皇であったが、平安後期からの武士階級への実質的な政権移行から、江戸期における徳川幕府による長期安定政権後において、その知名度は、一部の知識階級の尊皇論者を除いて著しく低下していたのであり、明治維新政府が発足した後もほとんど変化のない状況であった。 そこで明治政府は民衆にとって無縁な存在であった新しい統治者を周知させるために各地に天皇の巡行などを行い、さらにそのひとつの方策として、天皇が最高神アマテラス大御神の子孫であり、カムヤマトイハレビコが橿原で即位し初代天皇神武となる由来を語る、八世紀初頭に成立した『古事記』(和銅五(七一二年)成立)、『日本書紀』(養老四(七二〇年)成立)の神話や物語を知らしめることが行われていったことを述べた。

「ニニギ」	単	平成25年12月24日	『歴史読本（特集）古事記 日本書紀 風土記の神々』（新人物往来社）二〇一四年二月号 84～89頁	<p>『古事記』『日本書紀』に載録された天孫降臨神話のアメニキシクニニギシアマツヒコヒコホノニギノミコトの神名について、ホノニギのホ(穂)は、アマテラス大御神の子でニニギの父であるオシホミミのホ(穂)から、ニニギの子のホデリ、ホアカリ、ホマリ(またの名アマツヒコホホデミ)のホ(穂)へ続き、次のウガヤフキアヘズは稲穂に関する名を持たないが、その子稲氷(いなひ)のイナ(稲)、その弟の御毛沼(みけぬ)のミケ(ミケは御食で主食の米(稲)に関係する)と続いて、その弟の初代天皇神武(じんむ)となる若御毛沼(わかみけぬ)(亦の名は神(かむ)倭(やまと)伊波礼(いはれ)毘古(びこ))のミケへ連なるものといえるが、天皇の祖先神が稲穂に関連する名を持つことは、天皇が我国の主食である米(稲)の実りを左右する力能を持った支配者として語られていること、また、『古事記』ではニニギノミコトは天降った「天神御子」と表記され、天上(高天原)の神(アマテラス大神)と地上(葦原中国)の天皇(神武天皇)とをつなぐ役割を担っている神として設定されていることを述べた。</p> <p>さらに、いわゆる「天孫降臨伝承」が大きく取り上げられるようになったのは、実は近代に入ってからであることを指摘し、ニニギノミコトは初代天皇として即位した神武の曾祖父として、最高神アマテラス大神の孫であり、地上(葦原中つ国)支配の命を受け、天上の高天原から天降る神として大きく取り上げられ、そのいわゆる「天孫降臨」の神話とそれを描いた図像は、ひろく、教科書、新聞、雑誌、絵画、絵葉書、引札、展覧会等多くのメディアに取り上げられることとなり、美術においてはそれが明治二十年代に流行した歴史画の題材として多く描かれていたことを述べた。</p>
つくられた神武天皇一近代におけるその図像化の試みを「みづら」を中心に考える一	単	平成26年8月	『文化史史料考証』嵐義人先生古稀記念論集(アーツアンドクラフツ)	<p>『古事記』『日本書紀』に載る初代天皇神武という古代説話の登場人物の近代における造形について、多くの図像を用いて考察した。そもそも『古事記』『日本書紀』に図像が載せられているわけでもなく、『古事記』『日本書紀』の神武説話には、神武帝に関する装束の形容は皆無である。</p> <p>神武天皇の「みづら」を結う図像は、近代に入り、「戦う天皇」の象徴として、また文明化の象徴として作爲されていったものである。</p> <p>近代以降の我々が目にする歴史的図像は、あくまでもつくられたイメージ、意識的、無意識的に拘わらず、恣意的な選ばれたものとしてあることを、常に意識することが必要であろう。</p>
描かれた『古事記』一スサノヲのヤマタノヲロチ退治譚を中心に一	単	平成27年5月	『古代史研究の最前線 古事記』(洋泉社) 202～219頁	『古事記』『日本書紀』に載録されたスサノヲ神のヤマタノヲロチ退治譚が、後世、如何に変容を遂げていったかを平家物語、太平記等を例に挙げて検証し、近代の引札や絵葉書まで参照して考察した。

				また、ヤマタノヲロチが図像として描かれるとき、ほとんどが龍の姿で描かれることを確認し、我が国では蛇と中国の龍を同種の範疇に含めて考えることがあり、ゆえに蛇を描くときには龍の姿で描くという伝統が存したことを、室町期成立の『道成寺縁起絵巻』等を挙げて証明した。
サルタヒコとアメノウズメ神話の受容と変容 —幕末・近代における図像化の試みを中心に考える—	単	平成29年3月	『早稲田大学日本古典籍研究所年報』第十号 1～16頁+図版6頁	『古事記』・『日本書紀』は、天皇の国土統治の由来とその正統性を保証するためにつくられた。そこでは、その祖先神であり日本神話において最高の神格であるアマテラス大神が、天上の高天原からその孫ニニギを地上の支配者として日向の高千穂峰に降臨させ、その子孫が天皇となって日本の国土を支配することが語られる。 その降臨の途上において、アメノウズメ神がサルタヒコ神を詰問するというエピソードが語られるが、サルタヒコ神は、後世いろいろな神々や祭式と結合して変容を遂げていく記・紀神話中でも特異な存在である。該論では近世後期から戦前期までの変容を浮世絵、引札等の図像のモチーフを用いて分析し、天岩戸神話との関連や性神的側面の強調などがみられることなどを論証した。
学会発表				
演奏会・発表会				
その他の研究発表、演奏				
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
『古事記の歩んできた道展 図録』	単	平成 24 年 6 月 16 日～7 月 16 日開催	奈良国立博物館	『古事記』撰録1300年を記念して奈良国立博物館で展覧会を行った。 項目執筆: ○「古事記 図像の世界」(総論) ○「前賢故実 二十冊」 ○「THE HARE OF INABA. THE SERPENT WITH EIGHT HEADS.」 ○「鮮齋永濯畫譜 初編」 ○「引札(ヤマタノヲロチ) 明治三十六年」 ○「古事記・日本書紀双六 木版」
『古事記編纂1300年 古事記ゆかり地マップ』	監修	平成 24 年 10 月	発行:奈良県	古事記に記載された神話・物語に関連する項目を日本全国地図に指示して説明した。『なら記紀・万葉 名所図会 古事記・旅編』
『なら記紀・万葉 名所図会 古事記・旅編』	監修	平成 25 年 12 月 24 日	発行:奈良県	古事記に記載された神話・物語に関連する項目を奈良県図に指示して説明した。
『古事記編纂1300年 古事記ゆかり地マップ』	監修	平成 25 年 7 月 1 日	武揚堂	古事記に記載された神話・物語に関連する項目を日本全国地図に指示して説明したものを、武揚堂によって書籍化した。

研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成 26 年 4 月～	大学評議員			
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科主任			
平成 26 年 4 月～	論集委員			
平成 26 年 4 月～	図書館委員			
平成 27 年 4 月～	教職課程委員			
平成 26 年 4 月～	自己点検・評価委員			
平成 26 年 4 月～	学生募集委員			
平成 26 年 4 月～	合否判定作成委員・入試運営担当			
平成 28 年 9 月～29 年 3 月	任期制専任教員採用人事選考委員会委員長			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
平成 4 年～	古事記学会 理事			
平成 13 年～	上代文学会 理事			
平成 12 年～	風土記研究会 編集委員			
平成 15 年～	大正イマジュリイ学会 常任委員			
平成 5 年～	早稲田大学国文学会 評議員			
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
『古事記』の神話と説話	単	平成 24 年 6 月 24 日	奈良市中部公民館	奈良学セミナー(奈良市生涯学習センター主催) 『古事記』上巻に載録されたイナバのシロウサギ説話について、なぜシロウサギは「白兔」と表記されず、「素菟」と表記されるのか、ウサギを害するワニとは何のことなのか、またその後世の変容などの説話要素の分析をおこなったもの。
古事記とは何か、どのように読まれてきたのか	単	平成 24 年 7 月 8 日	三重県斎宮歴史博物館	斎宮歴史博物館 歴史講座 古事記という書冊がどのような経緯を経て成り立っていったのかを『古事記』序文に沿って考察し、『古事記』が和化漢文

				体というかたちで記されていること、太朝臣安萬侶の墓誌発見についても述べた。
古事記の成立と物語	単	平成 24 年 11 月 11 日	宇陀市文化会館かぎろひホール	なら記紀万葉リレートーク(奈良県主催) 『古事記』の成立について分析し、中巻神武天皇条に載る、宇陀のエウカシ、オトウカシ説話と、「宇陀の高城に鳴畏張る」の歌謡の解釈について述べた。
『古事記』の神話と物語	単	平成 25 年 1 月 27 日	御所市商工経済会館	日本の原風景『古事記』のふるさと『御所』を辿る(奈良県主催) 夜な夜な通ってくる男の正体を、糸を辿ってその正体を知るという『古事記』中巻に載る三輪山型説話の分析をおこない、風土記、平家物語、さらに、近隣の諸外国の例なども挙げて解説した。
古事記の成立と神話・説話の世界	単	平成 26 年 11 月 1 日・8 日・15 日 全 3 回(90分×3回)	大阪府泉佐野市立佐野公民館	『古事記』の成立について分析し、上巻イナバのシロウサギ説話や中巻の三輪山説話等の『古事記』に載録された説話について講演を行った。
イザナキ・イザナミ神婚譚の幕末、近代における受容と変容	単	平成 28 年 6 月 18 日	盛岡大学	古事記学会大会 公開講演会 十九世紀後半、我が国は徳川幕藩体制より天皇を戴く薩摩長州を中心とする維新政府による政体に移行した。 古代において我が国を統一した大和朝廷の最高位に君臨した天皇ではあったが、平安後期からの武士階級への実質的な政権移行から、江戸期における徳川幕府による長期安定政権後において、その知名度は、一部の知識階級の尊皇論者を除いて著しく低下していたのであり、明治維新政府が発足した後もほとんど変化のない状況であった。 よって、明治維新後の新政府が、天皇の国土統治の由来とその正当性を汎く普及させようと躍起になったのは理の当然といえる。 そのひとつの方策として、天皇が最高神アマテラス大御神の子孫であり、カムヤマトイハレビコが橿原で即位し初代天皇神武となる由来を語る、八世紀初頭に成立した『古事記』(和銅五(七一二年)成立)、『日本書紀』(養老四(七二〇年)成立)の神話や物語を知らしめることが行われていった。 よって、近代に入り、新聞、教科書、雑誌、挿絵、絵巻、引札、展覧会等多くのメディアに、『古事記』・『日本書紀』由来の神話や物語が溢れ出すこととなった。 該論では、近代における『古事記』・『日本書紀』の神話や物語がどのように受容され、新たな価値を付与され利用されていったのかをイザナキ男神とイザナミ女神の婚姻譚、交合譚を挙げて考え、その最大の焦点が婚姻の象徴としての発現であることを述べた。
学外機関委員等				

就任期間		機関名・委員名・役職名
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項		
海外での活動		
海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること		
期間	国名	概要